

障がい者・児福祉に関する
アンケート調査

報 告 書

平成26年10月

古賀市

I. 調査概要

1. 調査目的

障がい者が、地域で自立し、安全で安心して生活できる環境づくりをすすめるとともに、平成26年度中に策定する「古賀市障害者基本計画」に反映するため。

2. 実施方針

今回の調査は、福祉サービスを受けている身体・知的・精神等の障がい者・児について意識調査を実施し、意識を把握する。

3. 調査地域

古賀市

4. 調査の対象

(1) 障がい種類別

・身体障害者	79人	(23%)
・知的障害者	137人	(41%)
・精神障害者	71人	(21%)
・障がい児	52人	(15%)

合計 339人

ただし、重複障がいの人がいるため、対象者実数は322人。

(2) 調査方法

対象者に対して、アンケート調査票を発送あるいは訪問による聞き取りとした。発送にあたっては、アンケート調査票に依頼文及び返信封筒を同封して発送した。その後、平成26年9月30日までに回収された有効調査票について集計作業を行った。

(3) 回収状況

対象者322人に対して回収されたアンケート調査票は、158件であり、回収率は49%であった。

5. 調査結果利用上の留意事項

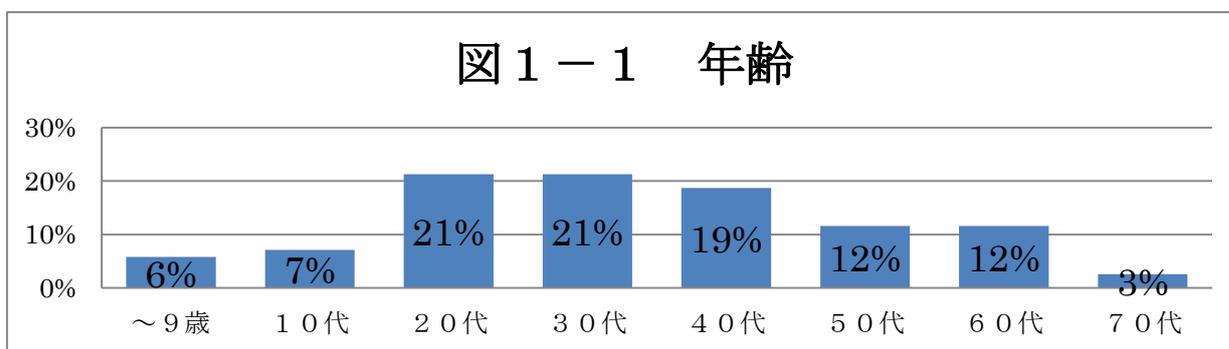
- ・パーセントは、小数点以下を四捨五入している。
- ・1つだけの回答設問に対して2つ以上の回答をしている場合には、小さい番号を有効回答とした。
- ・回答する設問において、複数回答や解答がない場合も多々あったため、各設問に対して有効に回答があったもの全体を100%とする表示としている。

Ⅱ. 調査結果

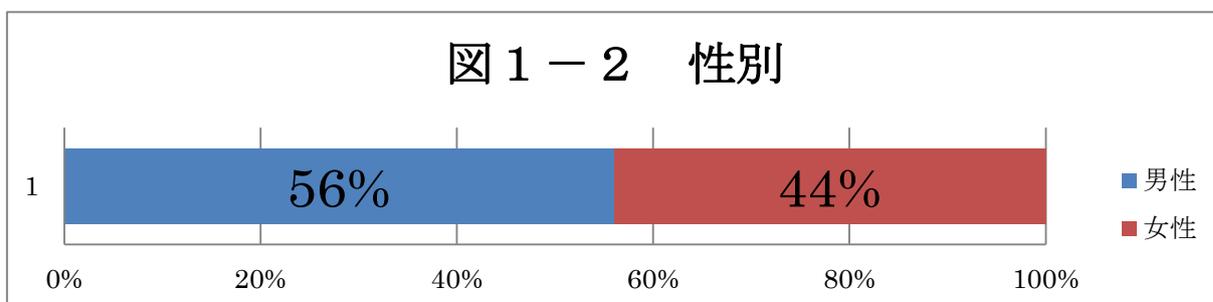
1. 回答者の属性

- ・「20代」「30代」「40代」で全体の60%を超える。
- ・男性と女性の割合は56%、44%となっている。
- ・居住地は、花見校区のみ7%と低い。
- ・同居者は、「父母・祖父母・兄弟」が半分以上（51%）を占め、配偶者、子どもと続く。

① 年齢

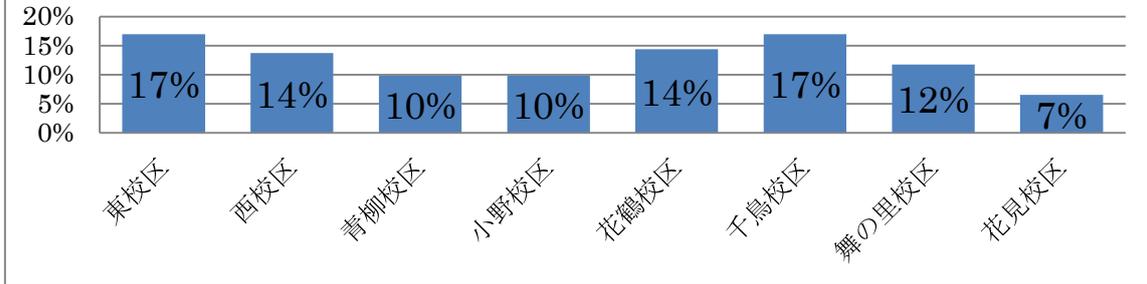


② 性別



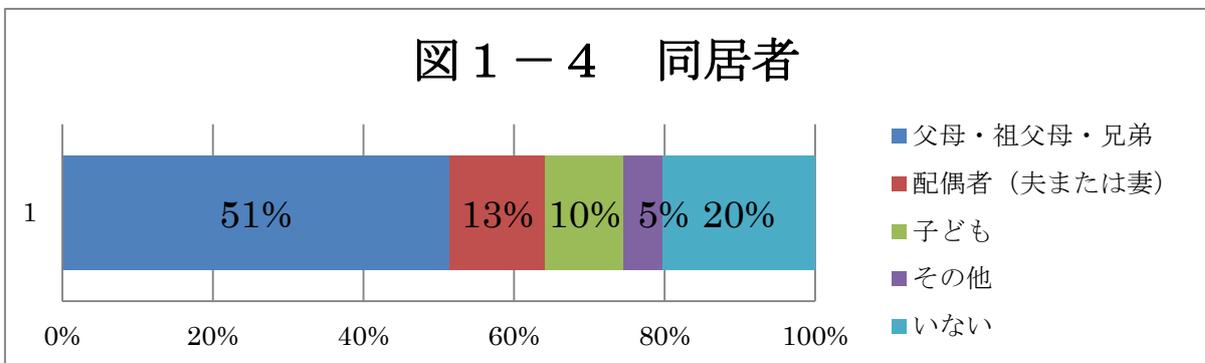
③ 居住地

図 1 - 3 居住地域



④ 同居者

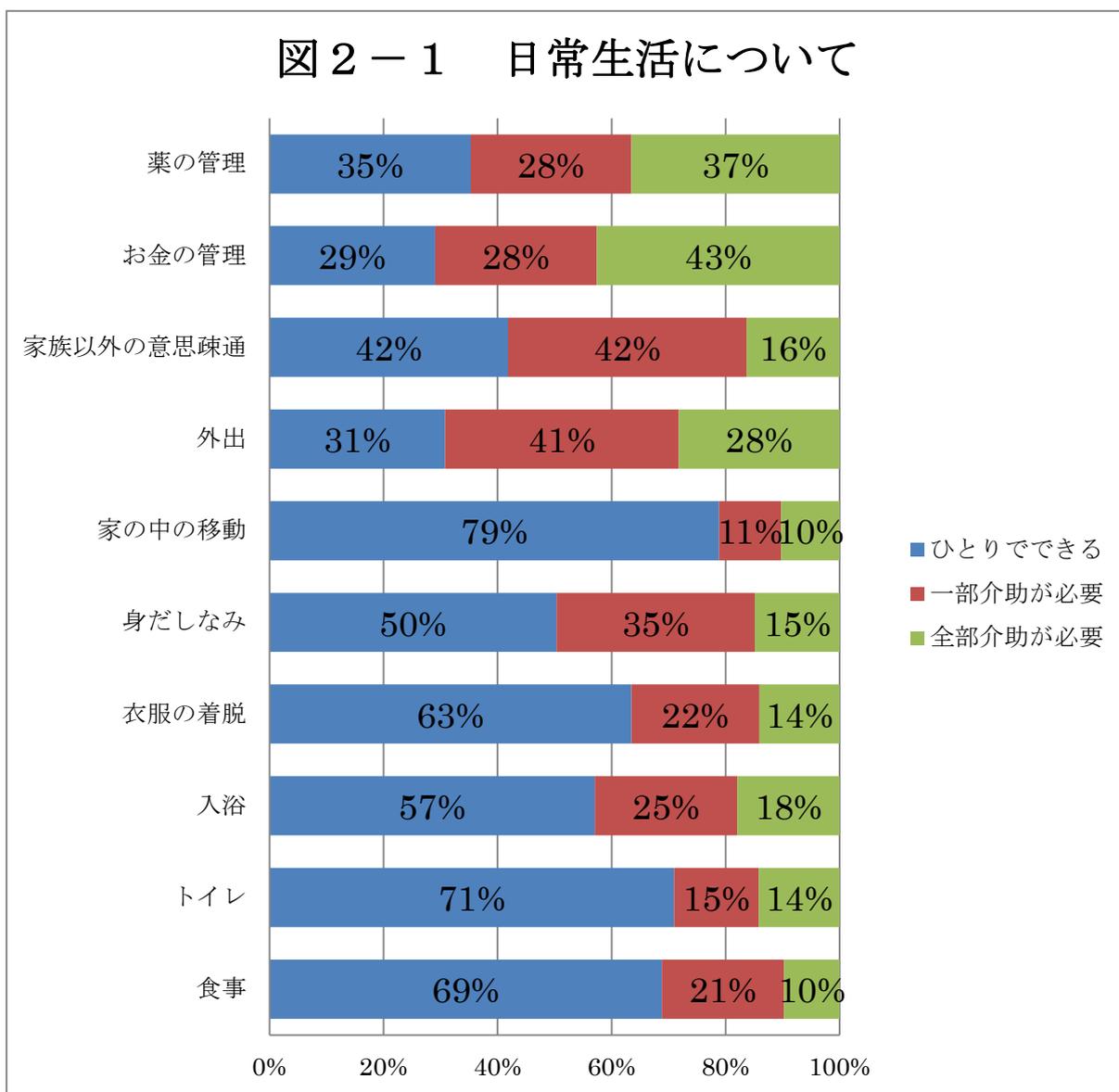
図 1 - 4 同居者



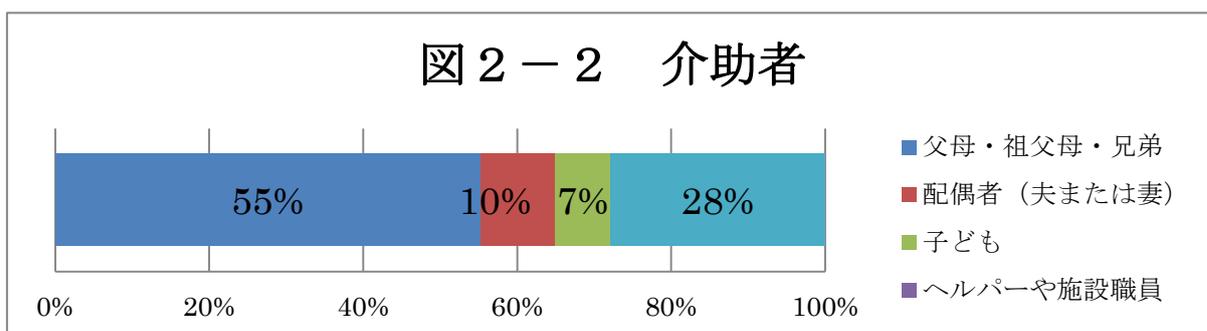
2. 日常生活について

- ・一人で出来るもので最も高いものが「家の中の移動」で79%を占め、最も低いものは「お金の管理」で29%となっている。
- ・一部介助では、「家族以外の意思疎通」が42%と最も高く、全部介助になると「お金の管理」が43%と最も高くなる。
- ・介助してくれる人を尋ねると「父母・祖父母・兄弟」が55%と最も高い。

① 日常生活について



② 介助者

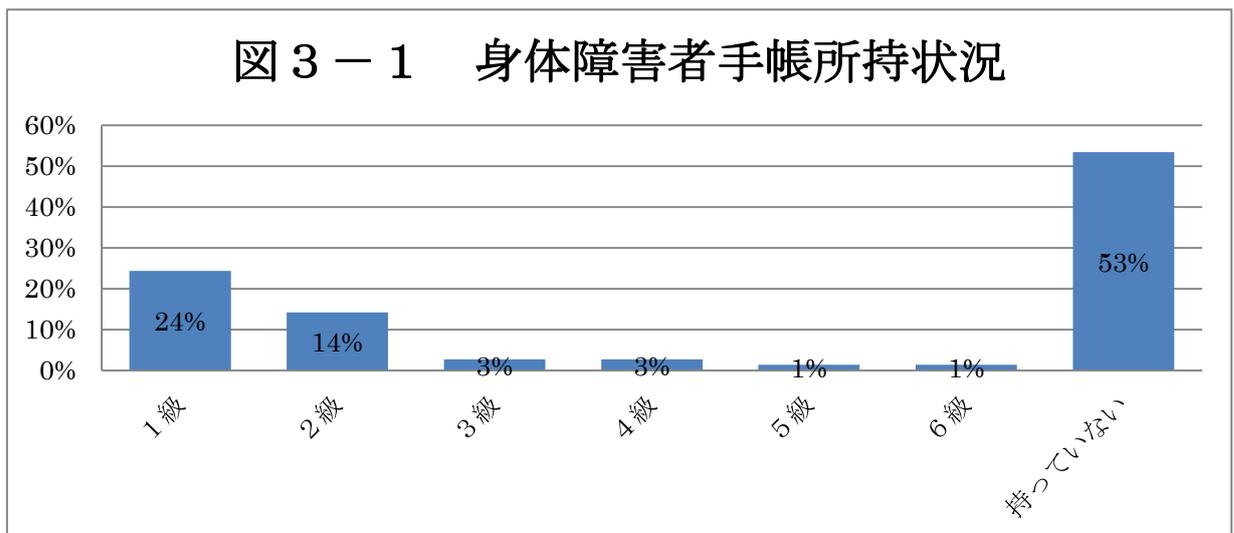


3. 障がいの状況について

3-1 各手帳の所持状況について

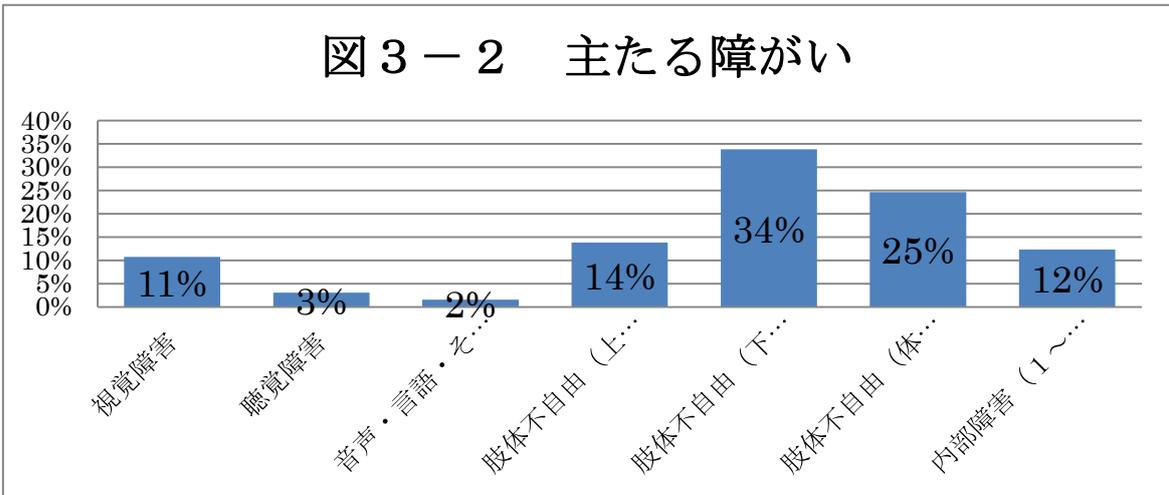
- ・身体障害者手帳の所持状況を見ると、「1級」と「2級」をあわせた重度の割合が38%となっている。
- ・主たる障がいでは、「肢体不自由（上肢）」「肢体不自由（下肢）」「肢体不自由（体幹）」で73%を占める。
- ・療育手帳の所持状況をみると、「A判定」が34%、「B判定」が28%となっている。
- ・精神障害者保健福祉手帳の所持状況をみると、「2級」が20%、「3級」が7%、「1級」が3%となっている。

① 身体障害者手帳所持状況



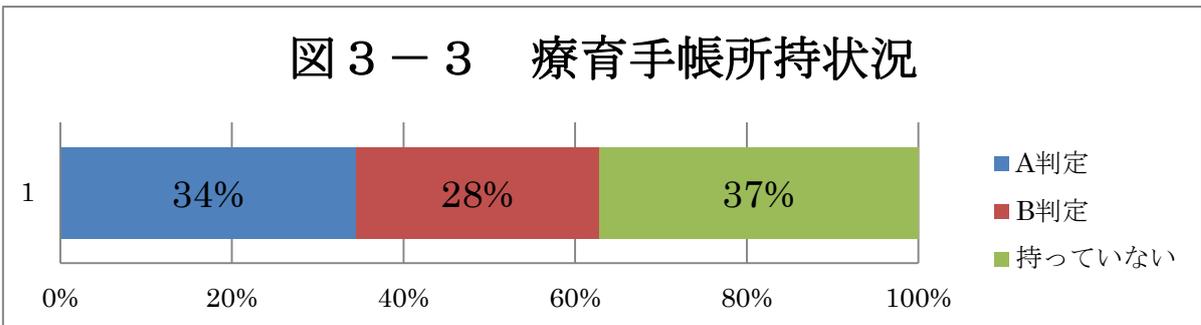
①-1 主たる障がいについて

図 3 - 2 主たる障がい



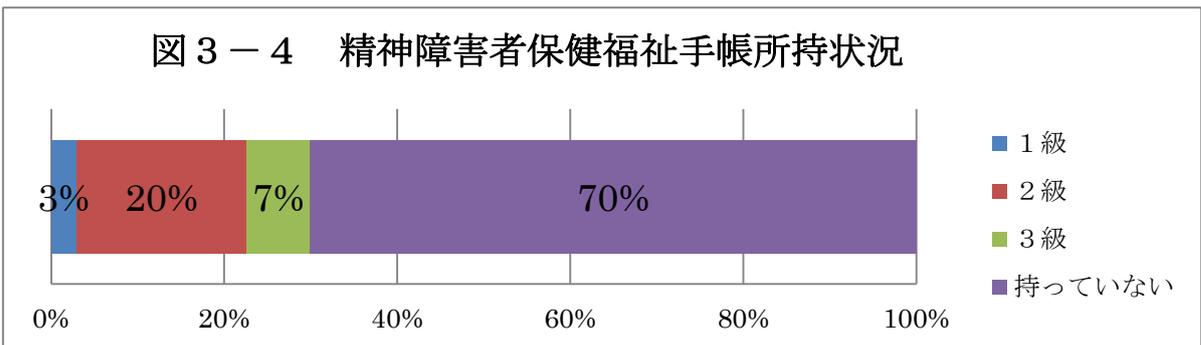
② 療育手帳所持状況

図 3 - 3 療育手帳所持状況



③ 精神障害者保健福祉手帳所持状況

図 3 - 4 精神障害者保健福祉手帳所持状況

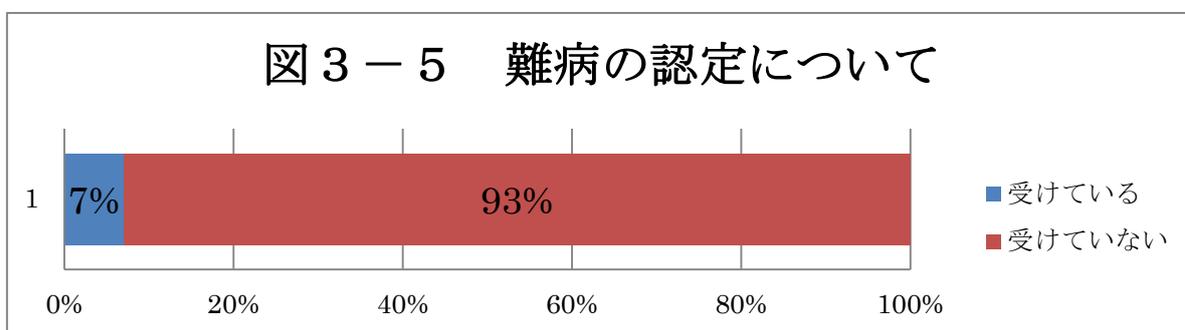


3 - 2 各障がいについて

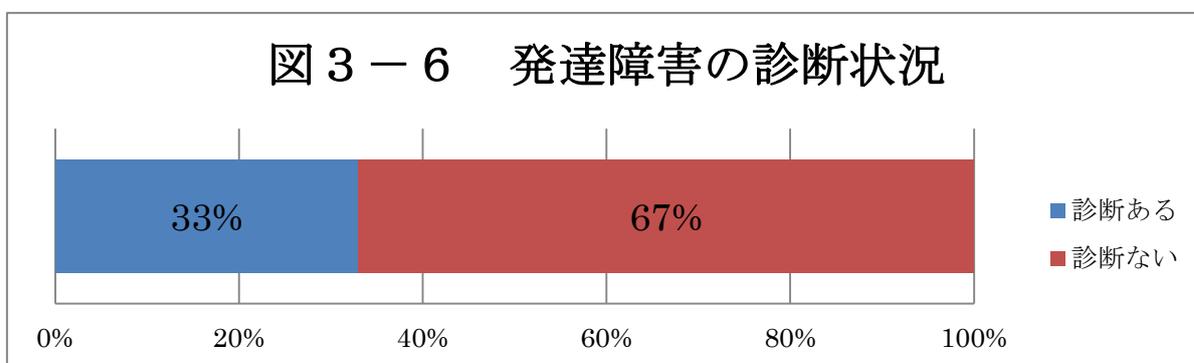
- ・ 難病については、認定を「受けている」が7%である。
- ・ 発達障害については、診断を「受けている」が33%である。

- ・ 高次脳機能障害は、診断を「受けている」が15%である。
- ・ 現在の受けている医療ケアは、「服薬管理」が50%と最も高い。
- ・ 機能回復訓練についての今後の希望では、「家庭から施設に通って受けてたい」が最も高く36%を占めている。

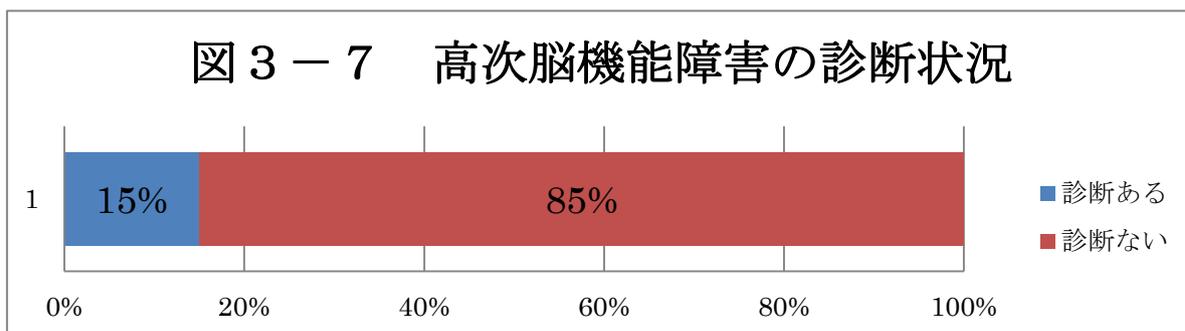
④ 難病について



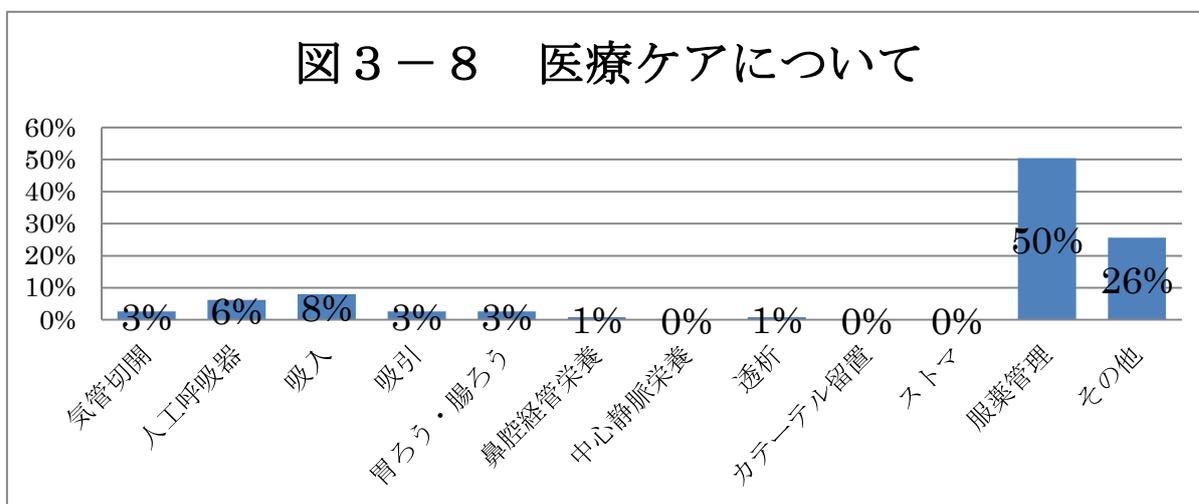
⑤ 発達障害について



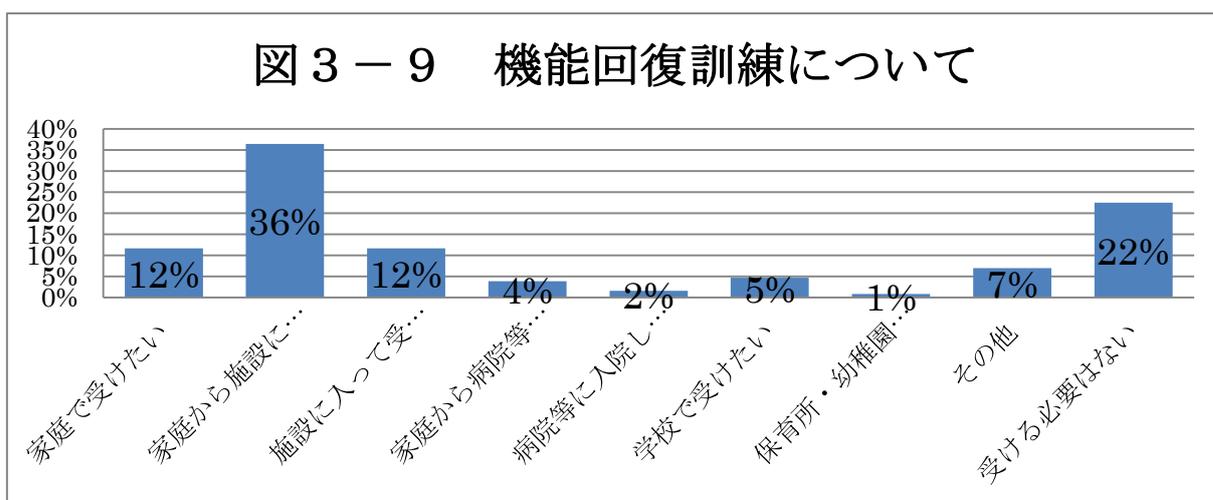
⑥ 高次脳機能障害について



⑦ 医療ケアについて



⑧ 機能回復訓練（リハビリ）について



3-3 精神障害について

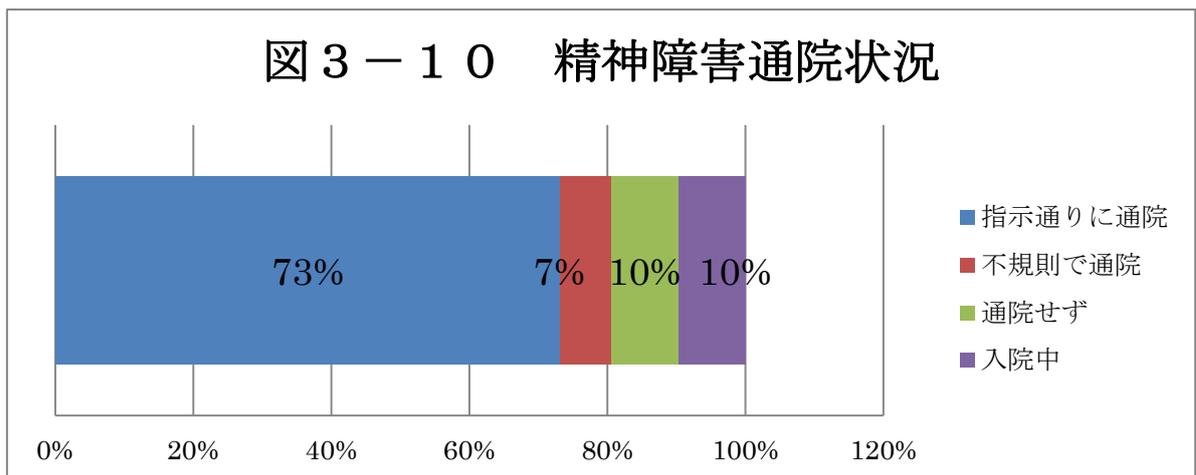
- ・通院状況をみると、「指示通りに通院している」が73%を占める。
- ・入院状況をみると、「入院の経験あり」が50%である。
- ・地域社会で必要な支援では、「周囲」では、「家族や親戚、知人」が30%と最も高く、「医療」では、病院や診療所での「精神科デ

イケアなど」が22%と高い。

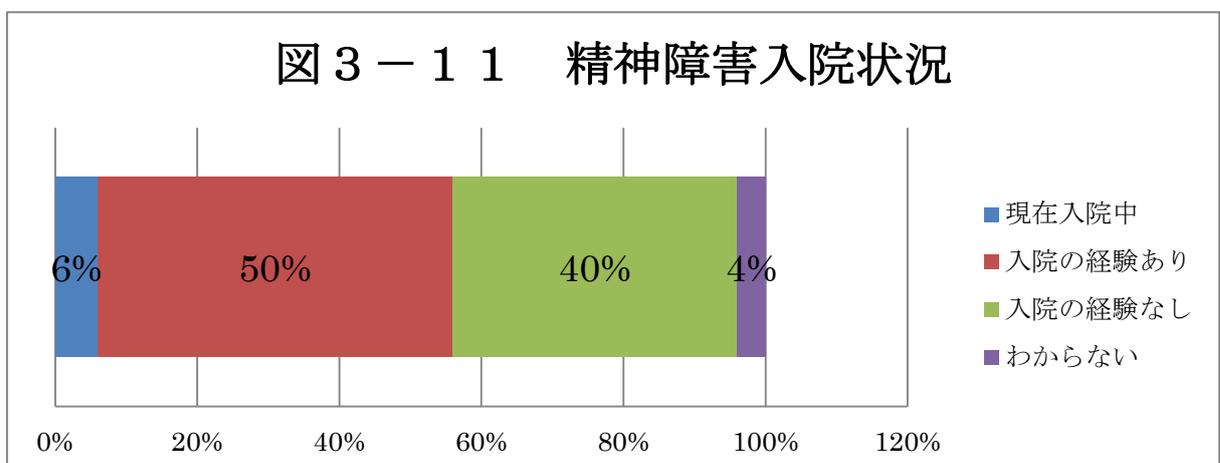
- ・今後、どのような住まいが必要かと尋ねると、「家族と同居」が37%と最も高く、どのような日中の活動の場が必要かでは、地域活動支援センターなどの障がい者が「自由に過ごすことができる場」が24%も最も高くなっている。

⑨ 精神障害について

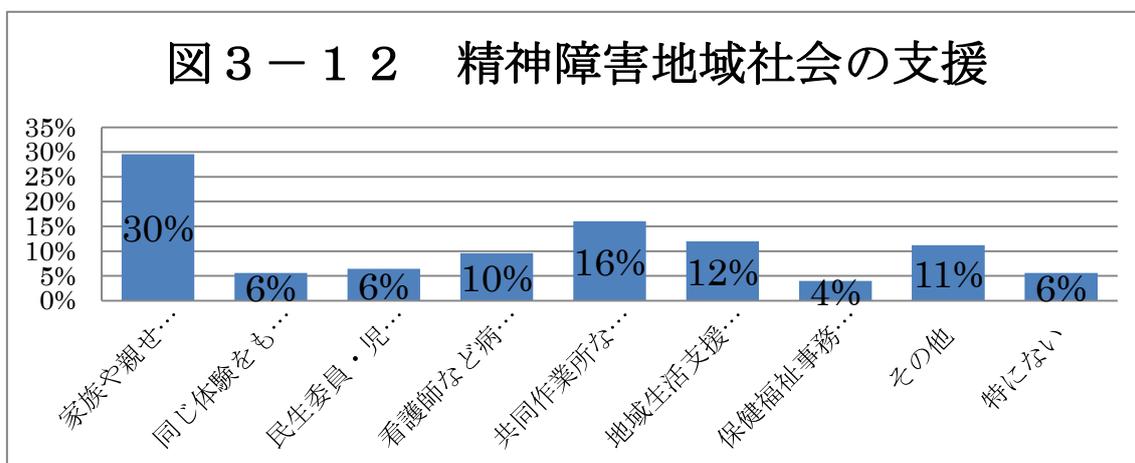
- ・通院状況



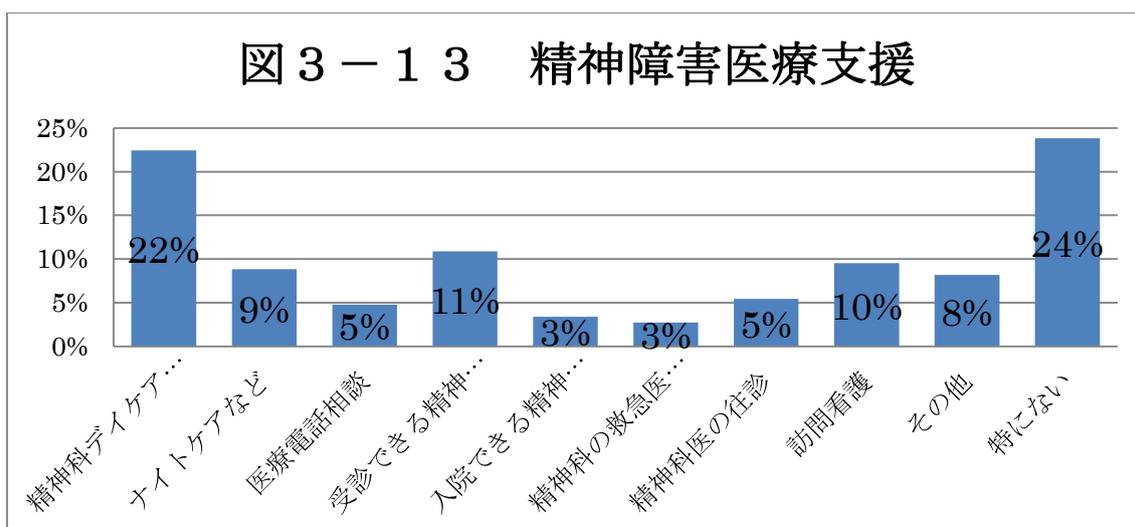
- ・入院状況



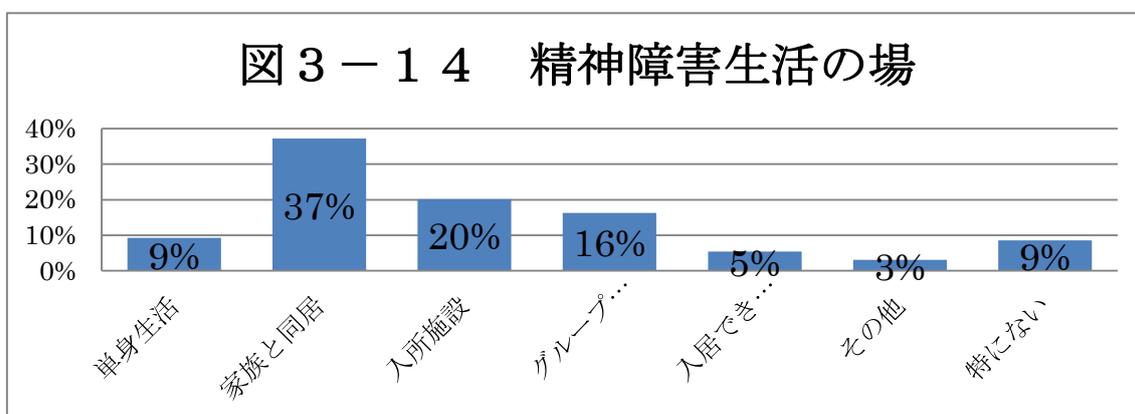
・地域社会の支援状況「周囲」



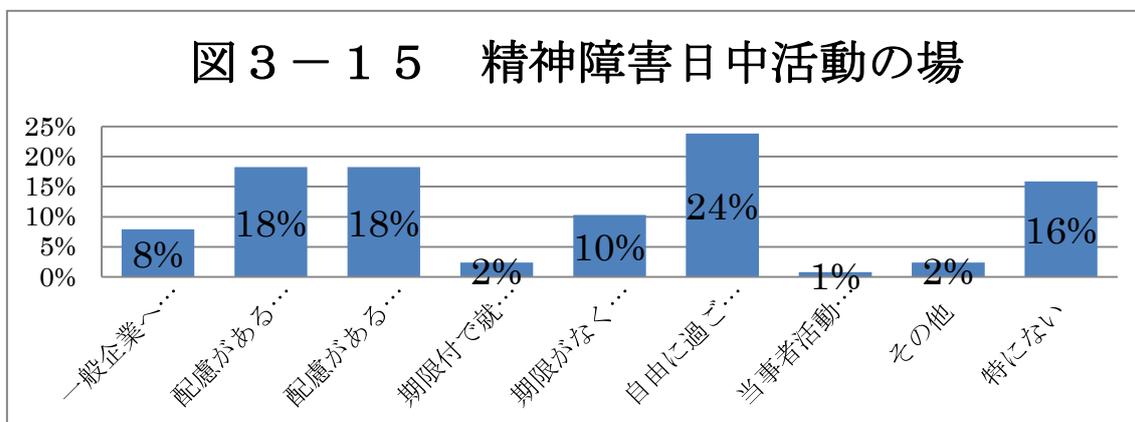
・地域社会の支援状況「医療」



・地域社会の支援状況「生活の場」



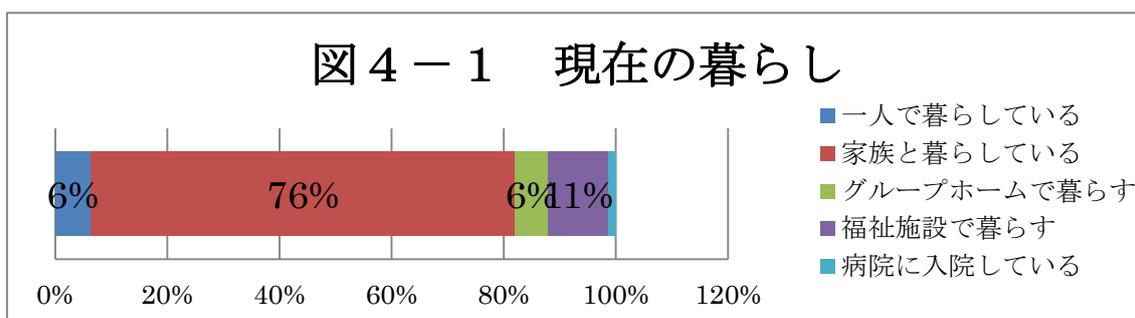
・地域社会の支援状況「日中活動の場」



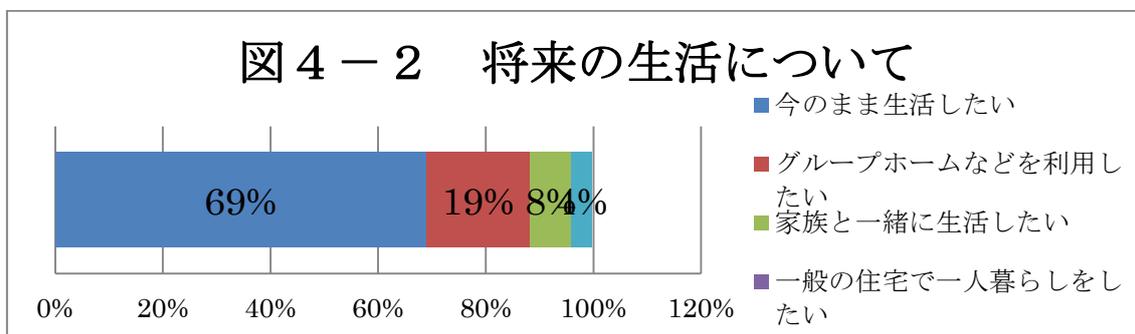
4. 住まい、暮らしについて

- ・現在の暮らしでは、「家族と暮らしている」が76%を占める。
- ・将来の地域生活では、「今のまま生活したい」が69%と最も高くなっている。
- ・地域で生活するためにあればよいと思う支援では、「必要な在宅サービスの利用」が26%と最も高く、「経済的な負担軽減」が17%、「住居の確保」と「地域住民等への理解」がともに14%と続く。

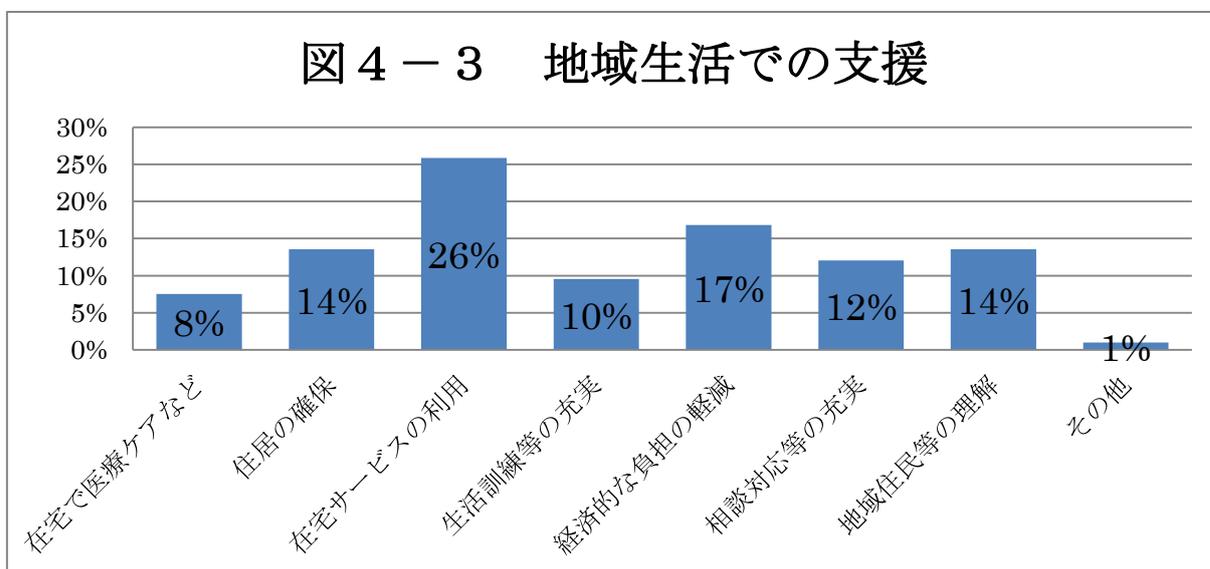
① 現在の暮らし



② 将来の地域生活について



③ 地域で生活するためにあればよいと思う支援



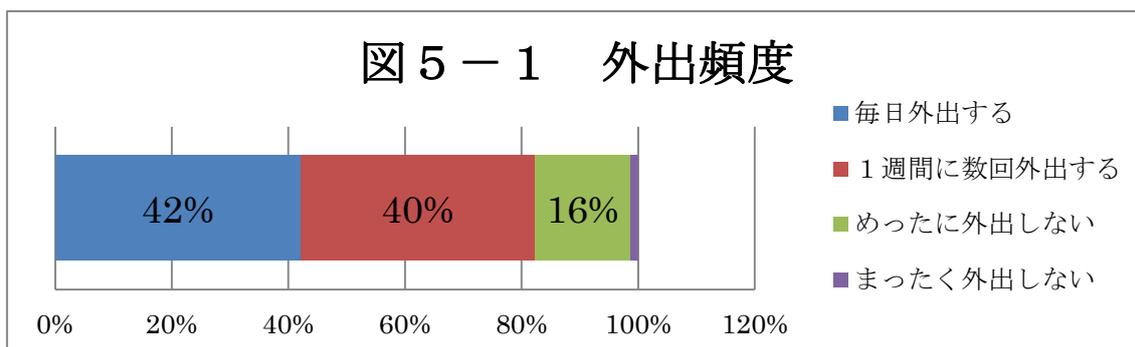
5. 日中活動や就労について

5-1 日中活動について

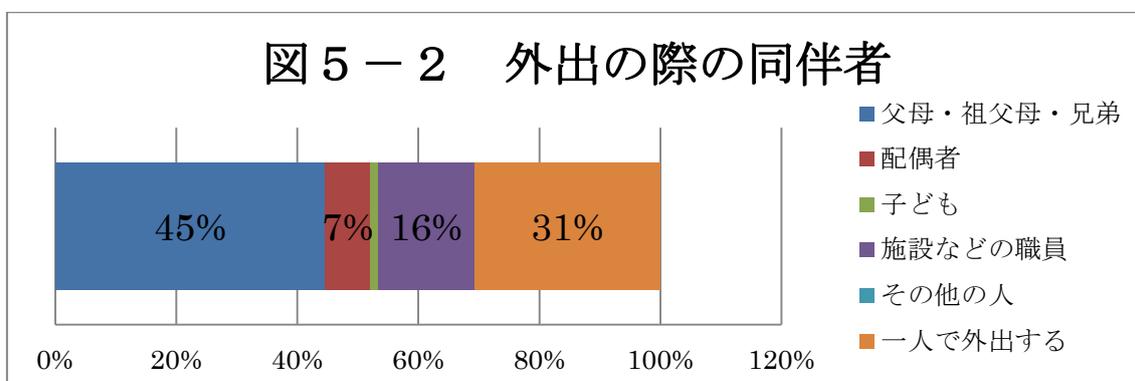
- ・外出頻度をみると、「毎日外出する」（42％）と「1週間に数回外出する」（40％）をあわせると8割を超える。
- ・外出する際の同伴者は、「父母・祖父母・兄弟」が45％となっており、次いで「1人で外出する」が31％となっている。

- ・外出目的は、「医療機関への受診」が26%と最も高く、「買い物に行く」が24%、「通勤・通学・通所」が20%と続く。
- ・外出の時困ることでは、外出時の「困った時どのようにしてよいか心配」が15%、「階段・段差が多い」14%、「外出にお金がかかる」13%、「公共交通機関」10%の順に高い。
- ・平日の過ごし方では、「福祉施設等に通っている」が46%で飛び抜けて高くなっている。

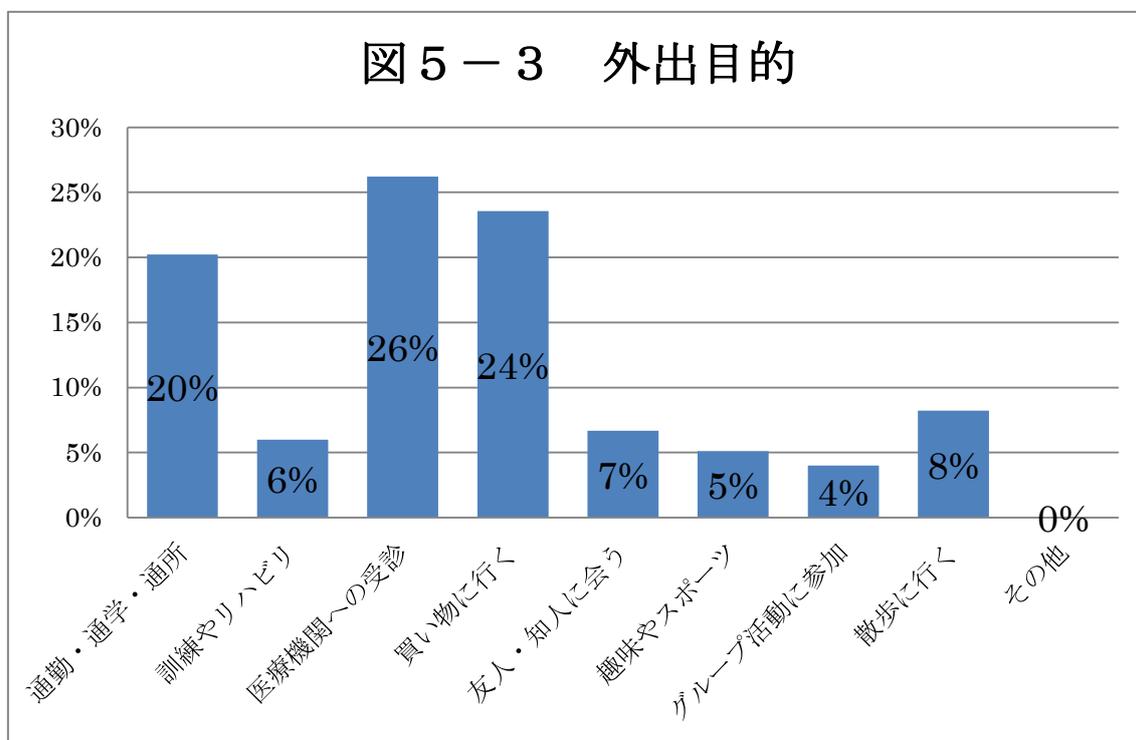
① 外出頻度



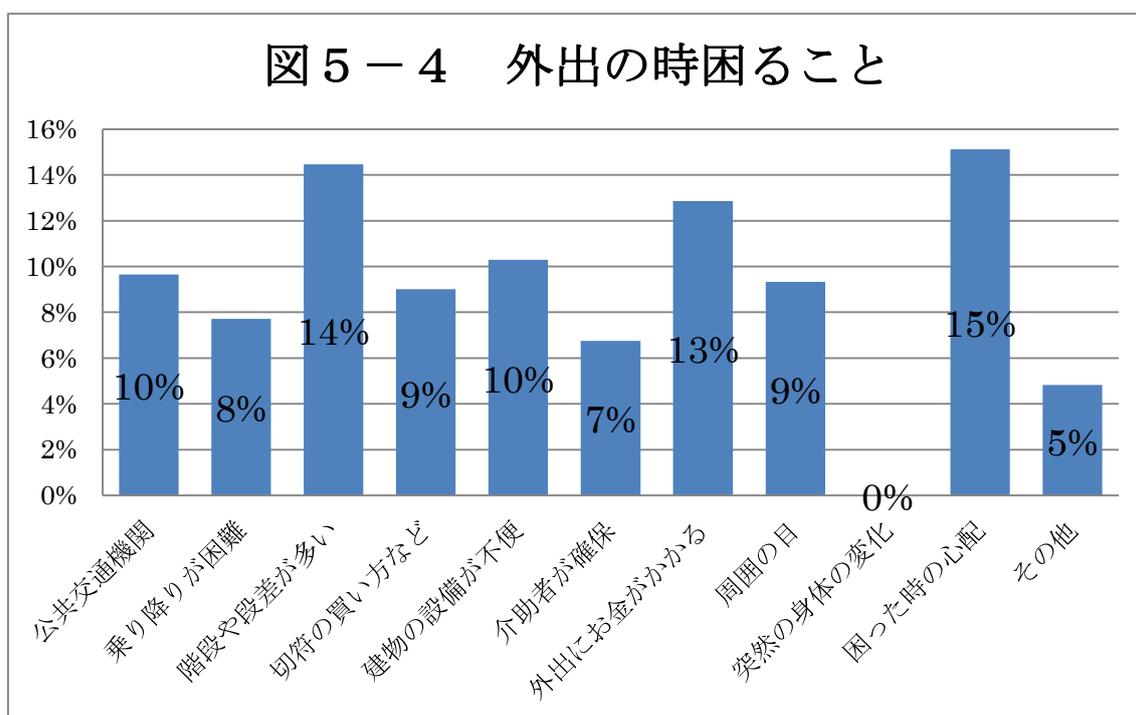
② 外出の際の同伴者



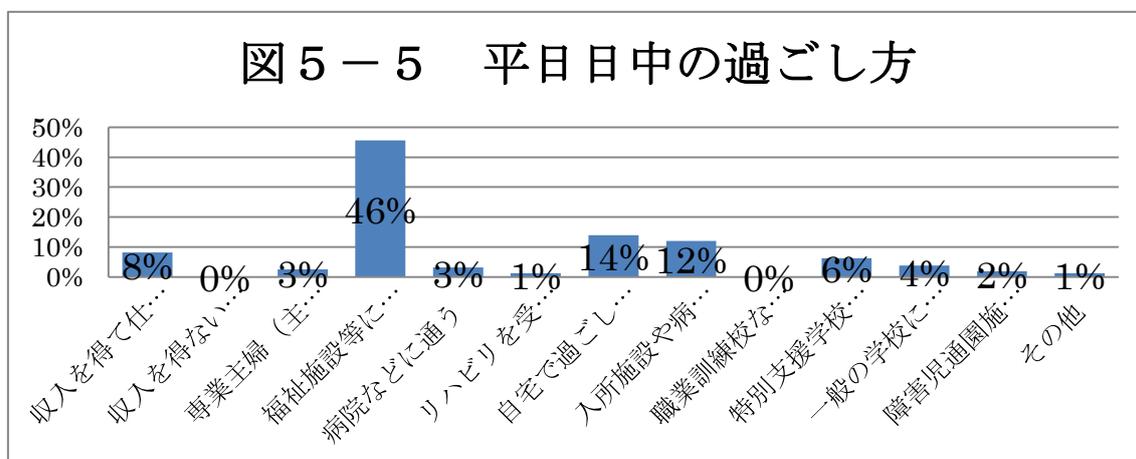
③ 外出目的



④ 外出する時困ること



⑤ 平日日中の過ごし方

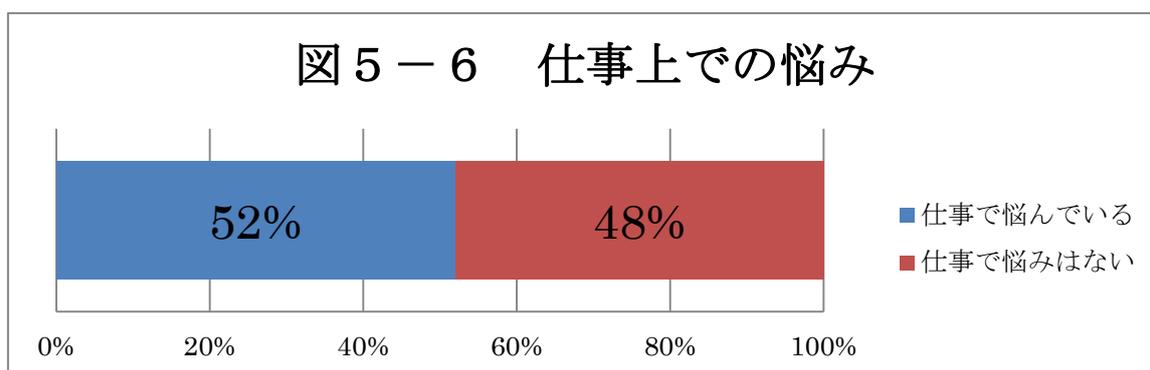


5-2 就労について

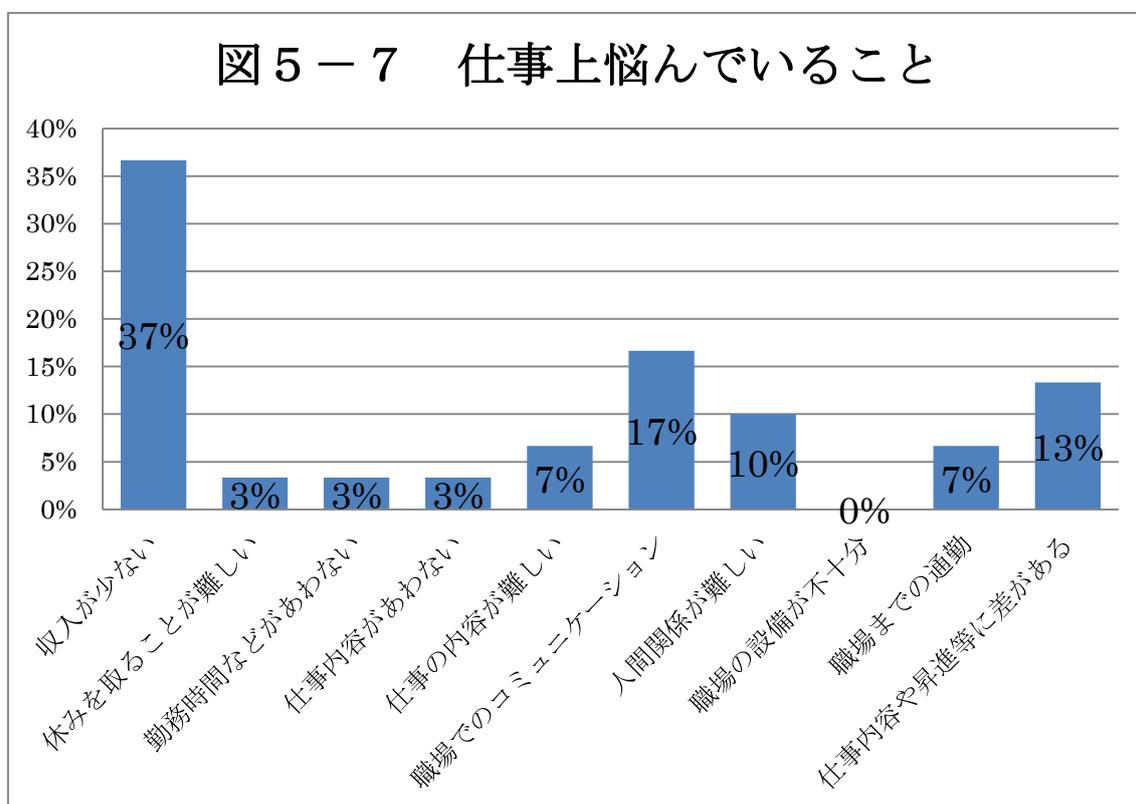
- ・ 仕事については、「悩んでいる」が52%と半分ぐらいの人が仕事に悩んでいる。
- ・ 悩んでいることは何かを尋ねると「収入が少ない」が37%と「職場でのコミュニケーションが上手く取れない」が17%とあわせると50%を超える。
- ・ 収入を得る仕事がしたいかでは、「仕事をしたい」が49%であり、「仕事が出来ない」も43%となっている。
- ・ 仕事をするとところでは、「民間企業など」と家から通える「就労支援施設など」がともに35%と高くなっている。
- ・ 職場体験については、「受けたい」が42%で、「すでに受けている」33%をあわせて75%となっている。

- ・ 必要な就労支援では、「勤務日数等の配慮」が17%と最も高く、「職場の障がい者への配慮」と「上司や同僚の理解」が16%と続く。

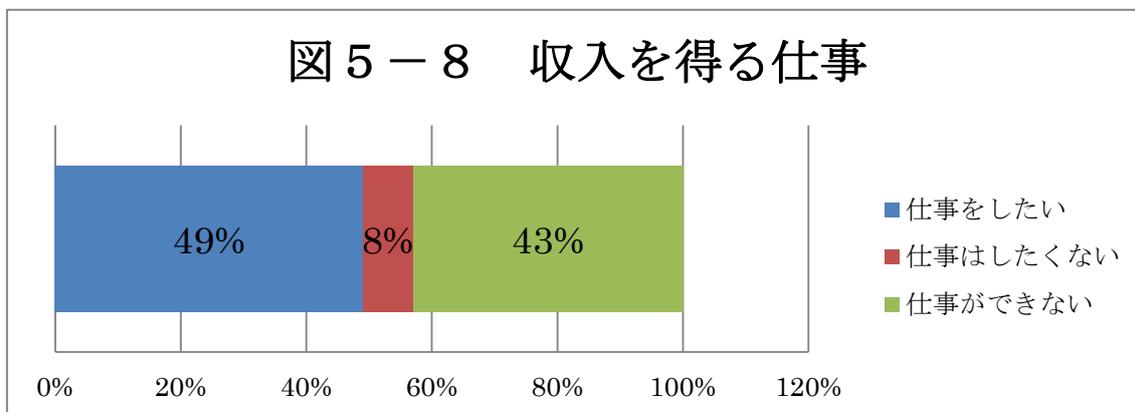
⑥ 仕事上での悩み



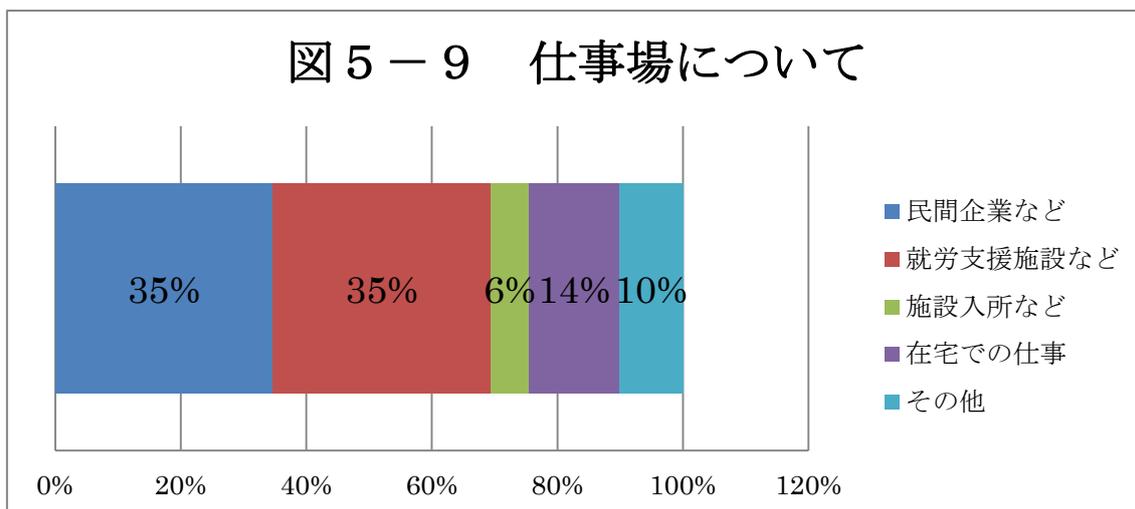
⑦ 仕事をする時悩んでいること



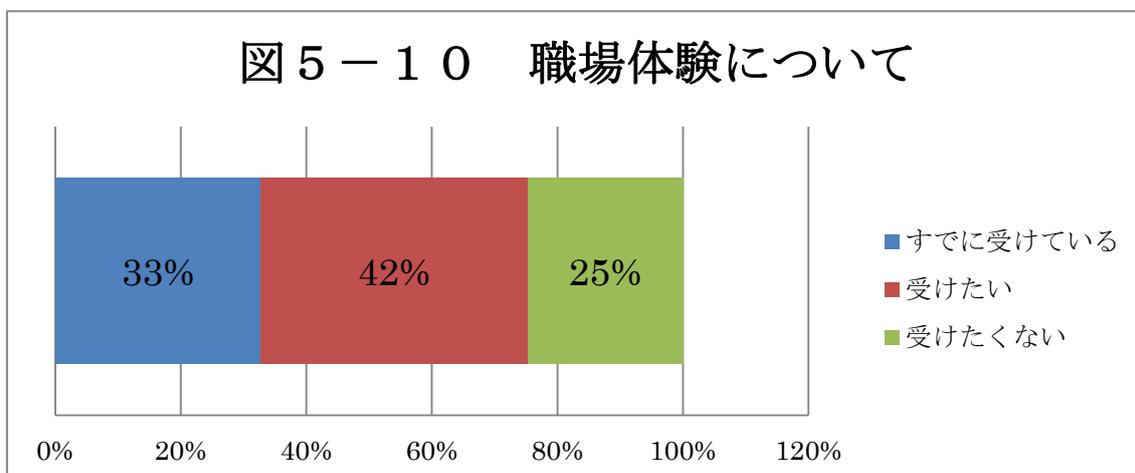
⑧ 収入を得る仕事について



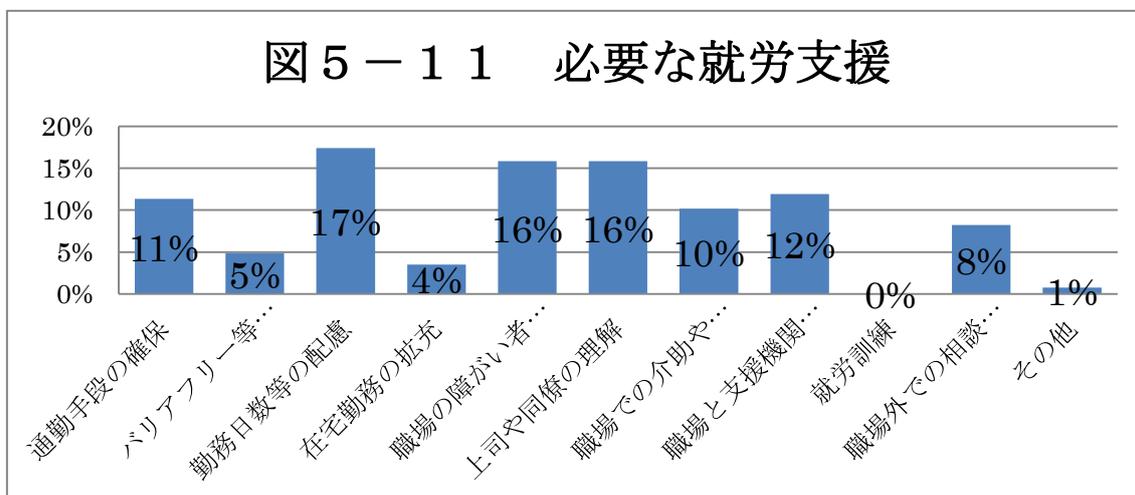
⑨ 仕事場について



⑩ 職場体験について



⑪ 必要な就労支援



6. 障害福祉サービス等の利用について

- ・現在、利用しているサービスで最も高いものは、「相談支援」で33%となっており、「就労継続支援」が26%、「就労移行支援」20%と続く。
- ・今後利用したいサービスで最も高いものは、「相談支援」で76%となっており、次に「自立訓練」と「就労継続支援」が56%、「就労移行支援」が52%で50%を超える。

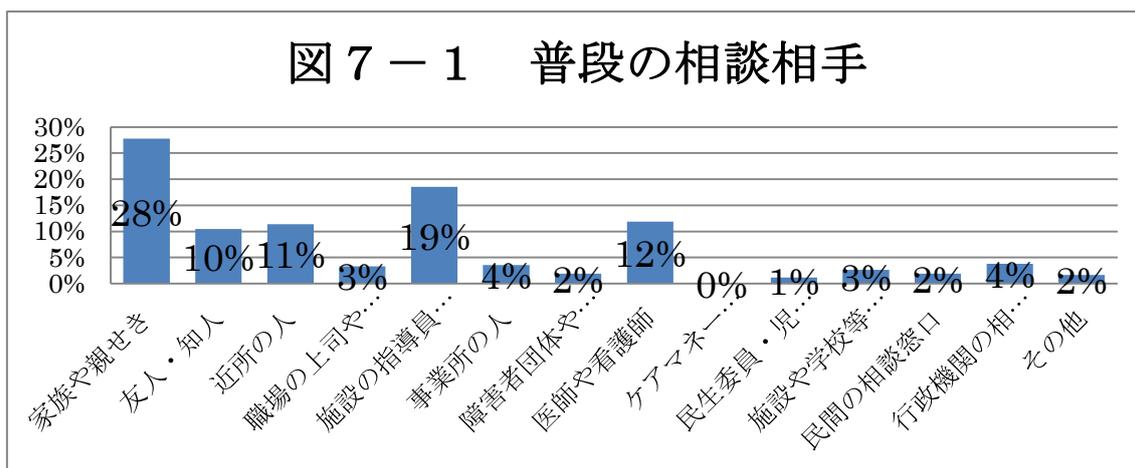
① 現在、利用しているサービス (P 29 図6-1)

② 今後利用したいサービス (P 29 図6-2)

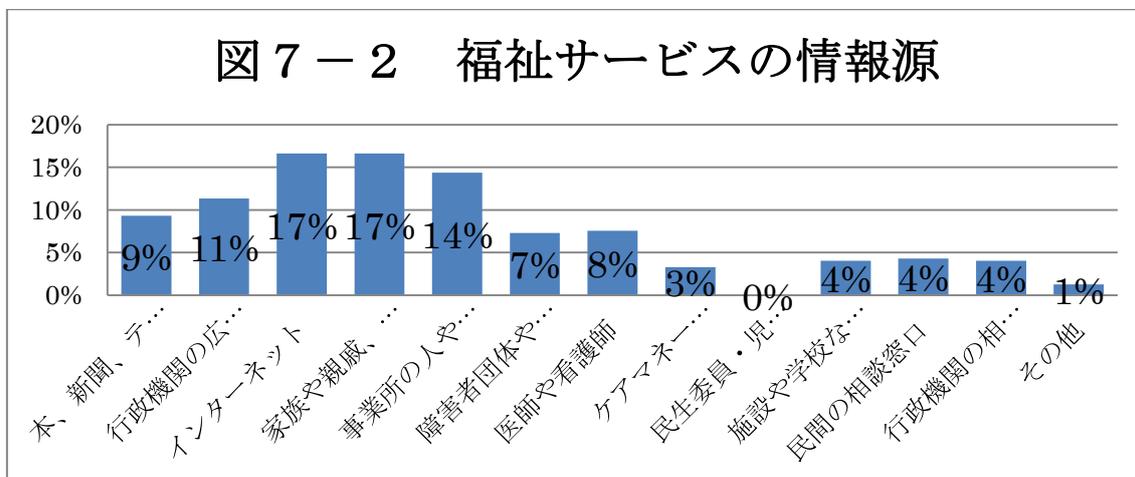
7. 相談相手について

- ・普段、悩みや困ったことを相談する相手を尋ねると、「家族や親戚」が28%と最も高く、「施設の指導員」が19%と高くなっている。
- ・障がいのことや福祉サービスの情報源については、「家族や親戚、友人・知人」と「インターネット」が17%と最も高く、「事業所の人や施設職員」14%、「行政機関の広報誌」11%の順に高くなっている。

① 普段の相談相手



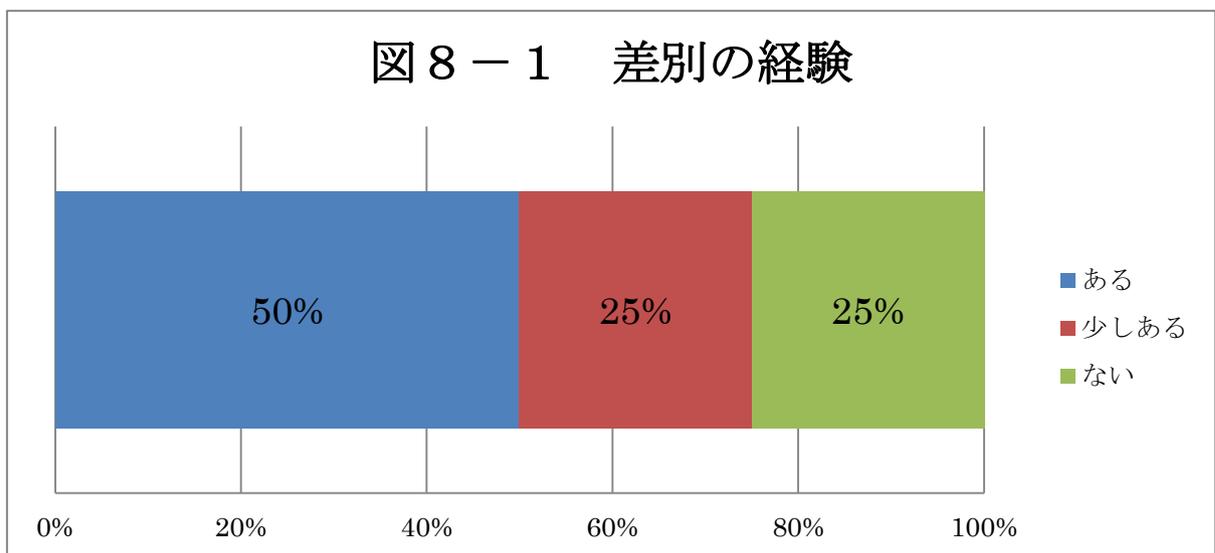
② 福祉サービスの情報源



8. 権利擁護について

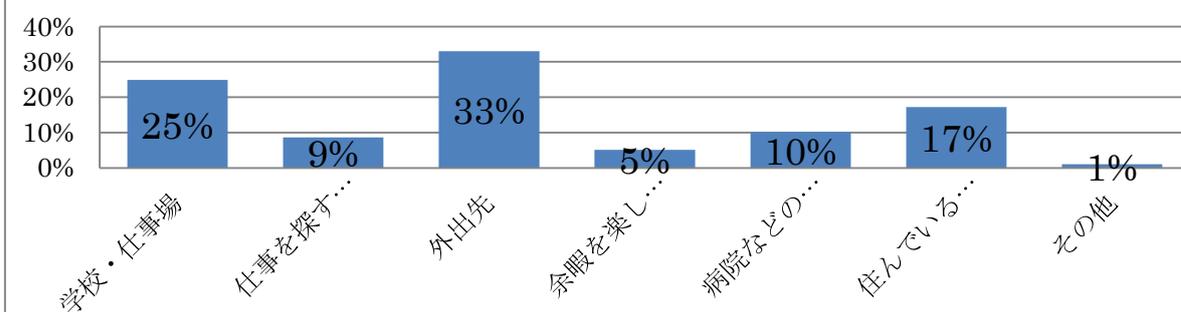
- ・障がいがあることで差別を受けたり嫌な思いをした経験を尋ねたところ、「ある」と「少しある」と回答した人が75%となっている。
- ・差別を受けたり嫌な経験をした場所では、「外出先」が33%で最も高く、「学校・仕事場」25%、「住んでいる地域」17%と高くなっている。
- ・成年後見制度の認知について、「名前も内容も知っている」が30%となっている。

① 障がいで差別を受けた経験



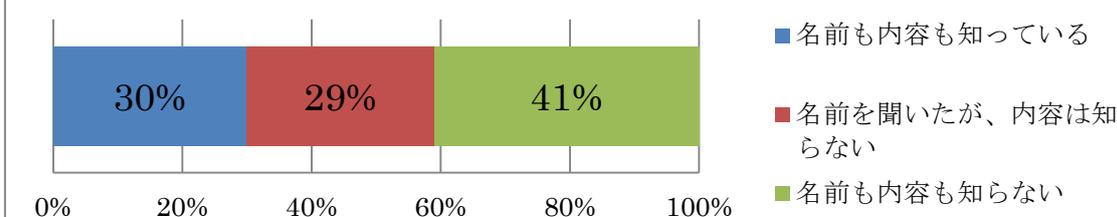
② 差別を経験した場所

図 8 - 2 差別を経験した場所



③ 成年後見制度について

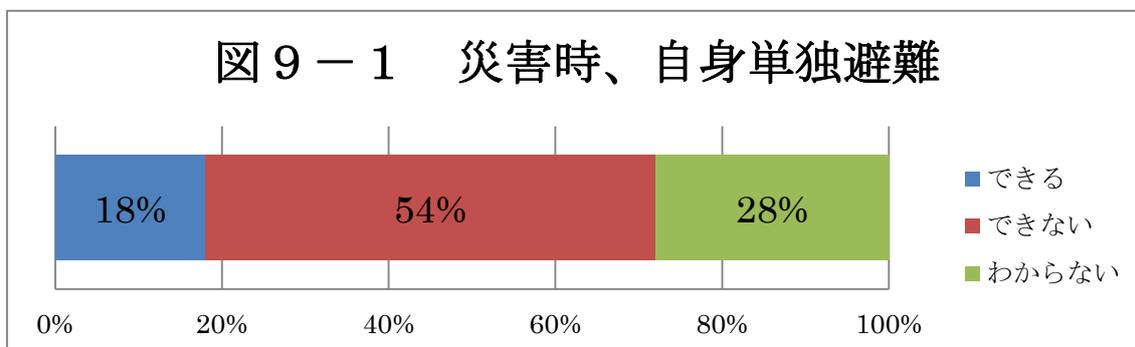
図 8 - 3 成年後見制度について



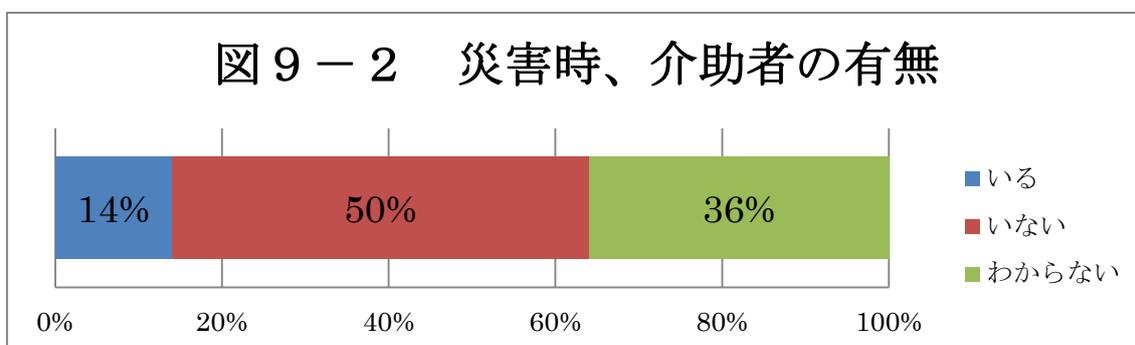
9. 災害時の避難等について

- ・ 災害時に1人で避難出来るかについて尋ねたところ、「できない」が54%となっている。
- ・ 災害時に近所にあなたを助けてくれる人がいるかを尋ねたところ、「いない」が50%であった。
- ・ 災害時に困ることを尋ねたところ、「避難場所の設備や生活環境が不安」が18%と最も高く、「迅速に避難することが出来ない」が17%、「周囲とのコミュニケーションが取れない」15%と高い。

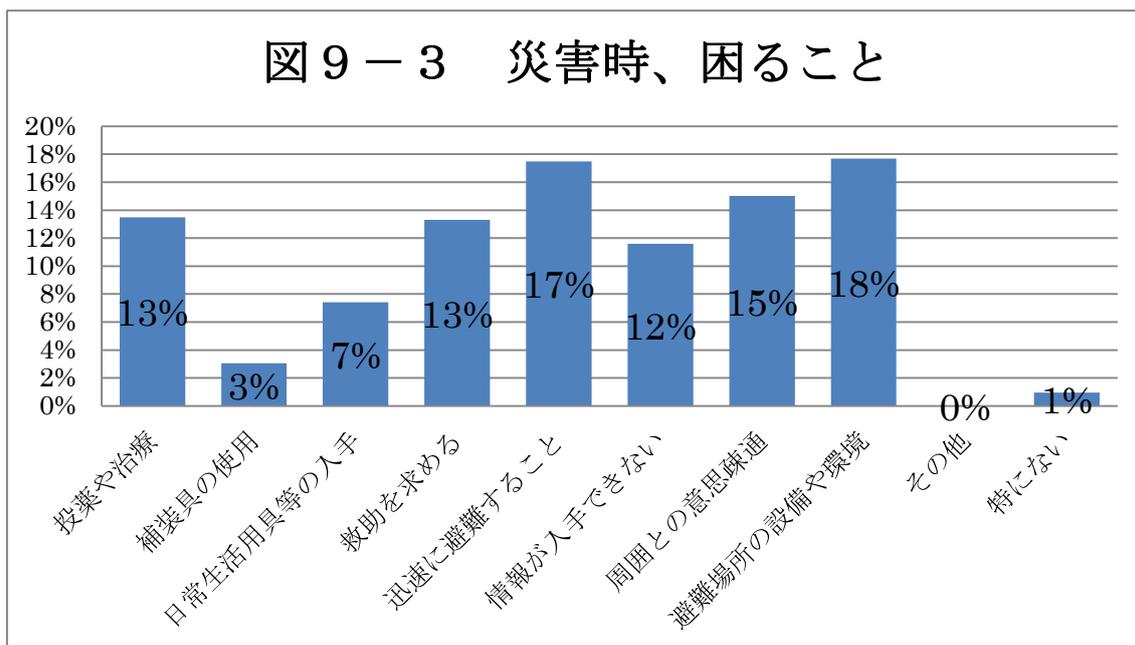
① 災害時、自身単独避難



② 災害時、介助者の有無



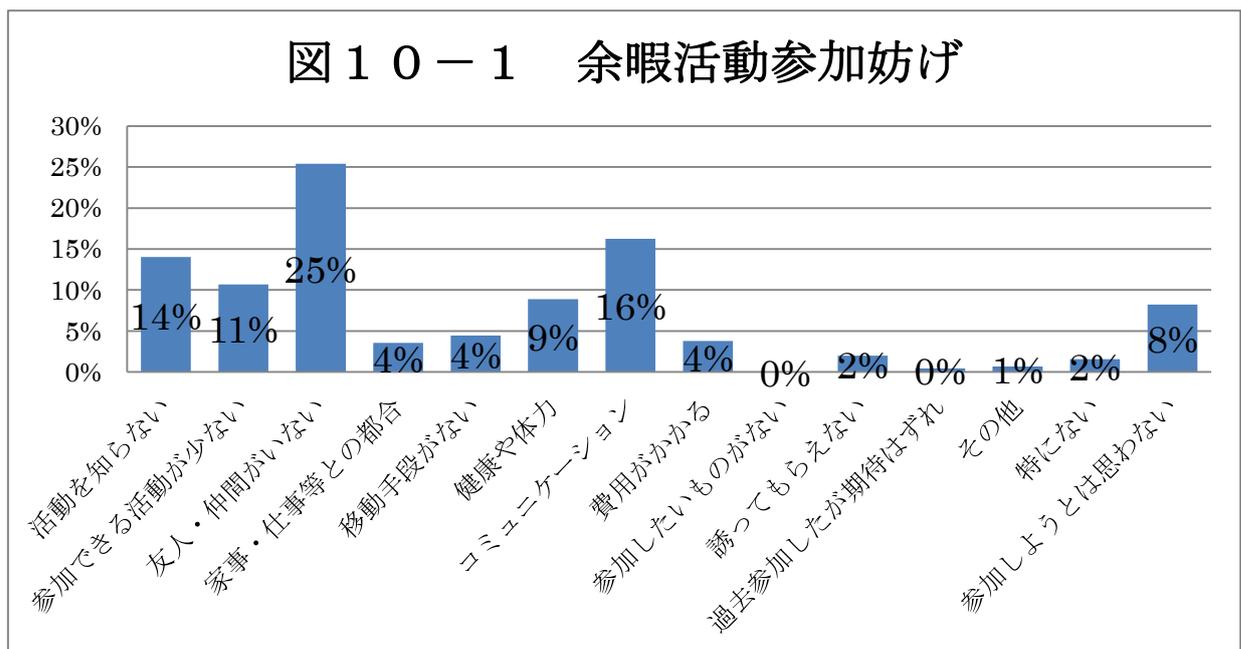
③ 災害時、困ること



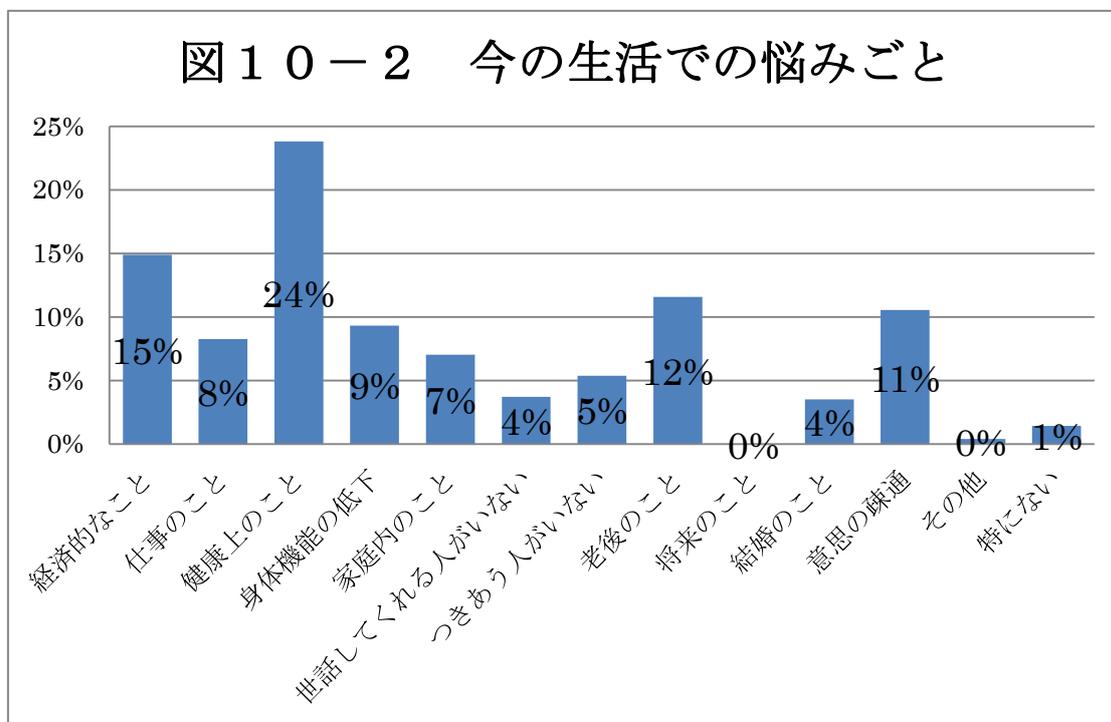
10. 生活全般について

- ・地域で行われる行事や余暇活動に参加しようとした場合、その妨げは何かと尋ねると、「一緒に活動する友人・仲間がない」が25%と最も高く、「コミュニケーションが難しい」が16%、「どのような活動が行われているか知らない」が14%の順に高くなっている。
- ・今の生活で不満なことや心配なこと、悩んでいることでは、「健康上のこと」が24%と最も高く、「経済的なこと」が15%、「老後のこと」12%、「意思疎通が十分に出来ない」11%の順に高くなっている。

① 余暇活動参加の妨げ



② 今の生活での悩みごと



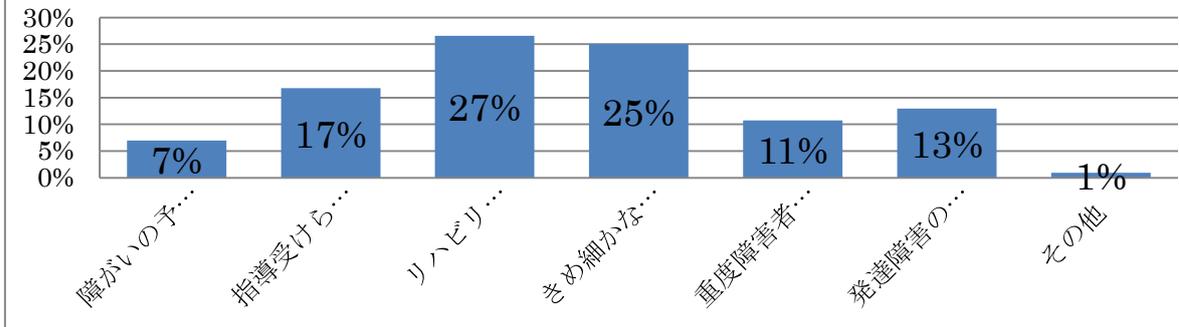
1 1.行政に対して注力して欲しいこと

障がい者・児福祉のために、行政に対して、特に力を入れて欲しいと思われることを各分野ごとに尋ねる。

① 保健・医療について

・保健・医療について、「事故や病気により障がい者となった人のリハビリを充実する」が27%と最も高く、「障がいに応じてきめ細かな医療を受けられる医療体制を整備する」が25%と高くなっている。

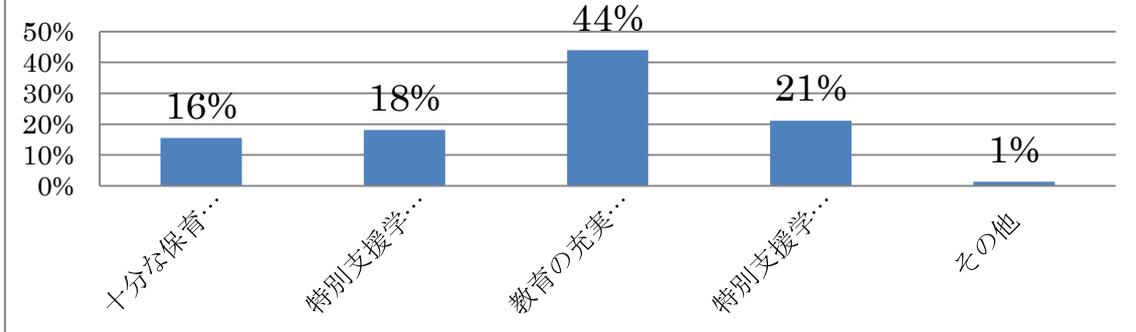
図 1 1 - 1 保健・医療について



② 教育について

・教育について、「障がい者・児の正しい理解のため、教育の充実と交流の促進を図る」が44%と最も高く、次いで「特別支援学校や特別支援学級卒業後の進路指導の充実を図る」21%となっている。

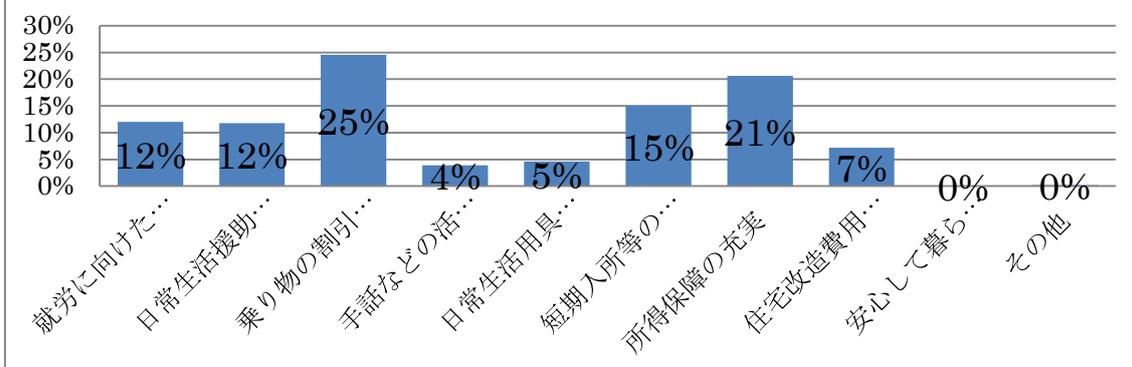
図 1 1 - 2 教育について



③ 生活基盤について

・生活基盤について、「乗り物の運賃割引制度の充実を図る」が25%と最も高く、年金、手当等の増額や税負担軽減など「所得保障の充実」が21%、保護者が病気などの場合に預かる「短期入所等の制度の充実」15%と高くなっている。

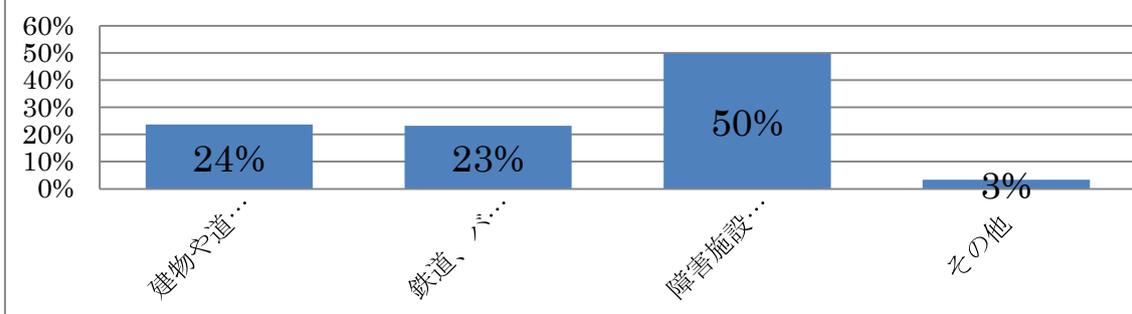
図 1 1 - 3 生活基盤について



④ 生活環境について

・生活環境については、エレベーターや障がい者用トイレなどの「障害施設の案内情報の充実」が50%と半数を占める。

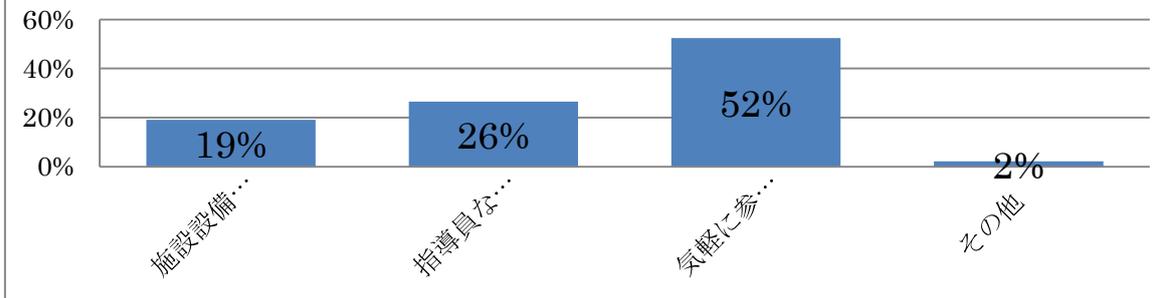
図 1 1 - 4 生活環境について



⑤ 文化・スポーツについて

・文化スポーツ活動では、気軽に参加出来る「文化、スポーツ行事の充実」が52%と50%を超える。

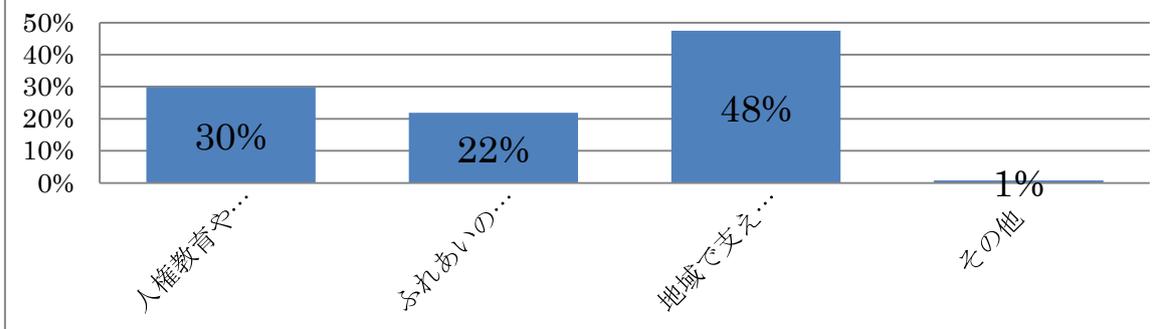
図 1 1 - 5 文化・スポーツについて



⑥ 啓発活動について

- ・啓発活動については、ボランティアや地域の福祉活動の体制を強化し、「地域で支え合い、助け合う仕組みづくり」が48%と最も高くなっている。

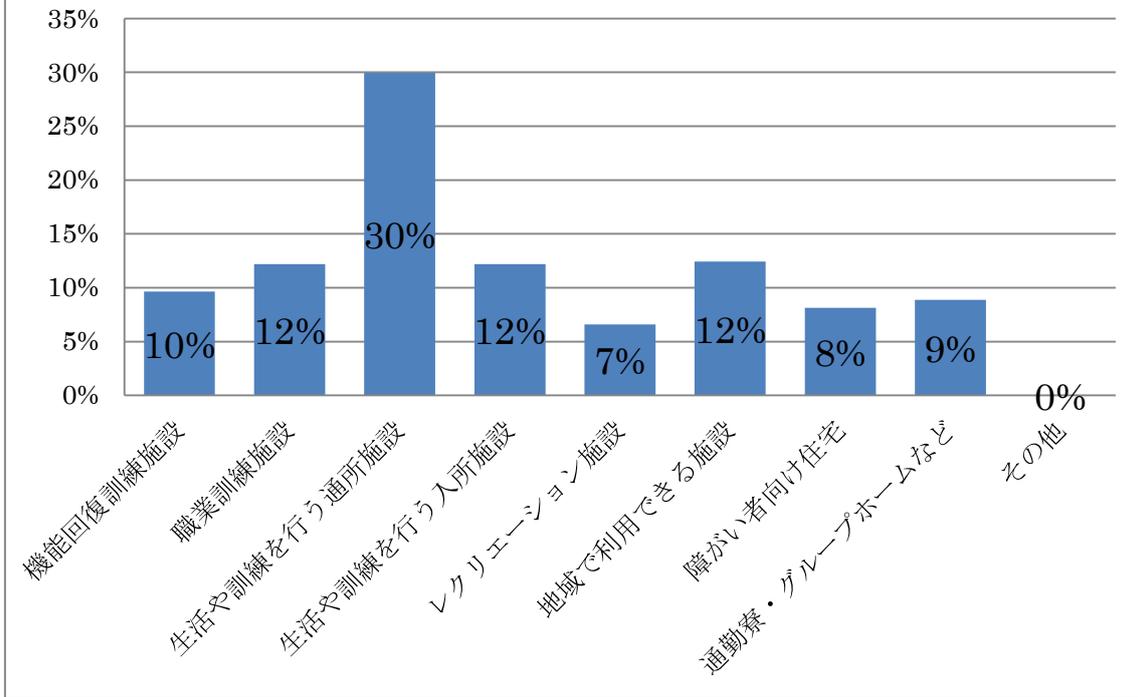
図 1 1 - 6 啓発活動について



⑦ 施設や建物について

- ・施設や建物の整備については、通所して「生活や訓練を行う施設」が30%と最も高く、「職業訓練のための施設」と「入所して生活や訓練を行う施設」、「地域で身近に利用できる施設」が12%と高くなっている。

図 1 1 - 7 施設や建物について



1 2 ご意見について

<保健・医療に関すること>
補装具・日常生活用具について申請するも必要な用具が作れない。
資格が取れるよう手助けしてくれる人・カウンセリングの保険適用
話せないので相談できない。
精神障がい者手帳偏見の目で見られるのが怖く手帳活用できない。相談等時間内ではできないので夜間、休日の充実を
リハビリ通所中、自分に自信が無くこのままりハビリを利用していきたい。
通学目的の移動支援や家族が在宅しない時間のヘルパー見守りも利用出来るように欲しい。
介護者、介助者の待遇改善をしてもらいたい
障がい者にも見守り介護の制度を設けてください。
障がい者本人や支援者も高齢となり、年々生活に不安を感じます
<教育に関すること>
学校で知的障害の早期発見を
中・高校生の障がい児が利用できる療育訓練施設を作って欲しい
<生活基盤に関すること>
福祉タクシーの利便性向上
老人ホーム 保証人・制約事項のない所がほしい
送迎の為に仕事を選べないので朝学校やバス停までのサービスがほしい。
知的 発達障害者の雇用の場を望む
話し相手、友人がほしい。病気、怪我の時が心配。
障がい者のための弁当サービスをしてほしい。
子どもの将来の介護が心配、安心して預けられる入所施設を増やして欲しい
利用できる障がい福祉のサービス、場所以不足している
障害者年金が少しずつ減らされているのが大変不安
放課後等デイサービスの時に学校へお迎えや家へ送迎をしてもらいたい
JRでの割引制度をしてほしい
グループホームなど入居できる施設が多くあると良いと思います
精神障害者がサンリブなどで一般就労ができるようにしてほしい
父親(支援者)が死亡したときすぐに入るところが欲しい
中・軽度の方の宿泊施設がほしい
定期的な相談訪問があると聞いたが、全くその訪問がない
もっと健常者と障がい者がいっしょに働ける社会環境をつくって欲しい
古賀市内に知的障がい者が利用できるグループホームがあると安心、障がい者が参加できる行事を行政で増やして欲しい。
<生活環境に関すること>
公共施設の貸出用車いす点検不十分(空気抜け)
障がい者用の駐車場が少ない。
屋根が無いので降雨の際、乗車時濡れる
外出できないのが障がい者なのでバス、電車に車いすで乗れるようにしてほしい。障がい者のバスをもっと利用させてほしい。
障がい福祉に関する情報が少ない、いろいろな手続きがまとめて出来るようになったら負担が減る
<文化・スポーツに関すること>
軽スポーツ(ボッチャ)が出来る場所探している
地域作業所のイベントのコラボが良いところだと思います。
<啓発活動に関すること>
外に出ていける環境づくりを。
障がいのある人、無い人が一緒に生活できる社会にならないか
利用できる福祉サービス等知らないことが多い
障がい者(児)に対する世間の目は冷たい、啓発活動が必要
<アンケートに関すること>
アンケートが次計画に反映されたか広報で報告して欲しい。
本人が理解する事が出来ないわからない。大まか過ぎて難しい答え易い回答にして欲しい。
このアンケートが十分理解出来ない所もあり記入してない所多かったです。
このアンケート結果が今後どのように反映されるのか明確にして欲しい
質問数が多すぎる
このアンケートが形骸化されることがないように役立てて下さい
<古賀市に関すること>
古賀市の福祉厳しい障がい児者にとって住みやすい市になってほしい。
障がい者の立場に立った親身な福祉課の窓口対応を望む
特別障害者手当のこと教えて頂き申請して良かった。
福祉サービスと言っても書類を書き捺印で終わりで家庭が困っていること要望に対応してくれない。
古賀市が障がい児者福祉No1になってほしい将来ある子達へ手を差し伸べて欲しい。
市からの情報で障害の害はやめてほしい
地域の中に相談できる場を福祉課職員の異動サイクルが早いもっと長く望む
クロスバール障がい者利用日あり、いつでも利用出来る様人員の配置を。
古賀市は他の市町村に比べ利用出来ないサービスが多い
障がい者の程度や種類によっては、決められたケースに当てはまらないこともあるので、親身になって意見を聞いて欲しい。
シャトルバスはあるが市役所とサンコスモが離れていて不便
グループホーム入所中、古賀市より1万円の補助があり、とても有り難い
担当者の感性を磨くこと、気配り・目配り・手配り
福祉課はとてもしっかり親切にして
行政の窓口をたまに良いので少し遅くまで開ける、もしくは土日開けてほしい
<その他>
民生委員は信頼出来ない
行政サービスは年々減少気味に感じる、国の姿勢が福祉に重きを置いてないような政策ばかりが目につく
現在、妊婦の検診時に胎児に障がいの有無がわかるような技術があるみたいですが反対です

図6-1 現在利用しているサービス

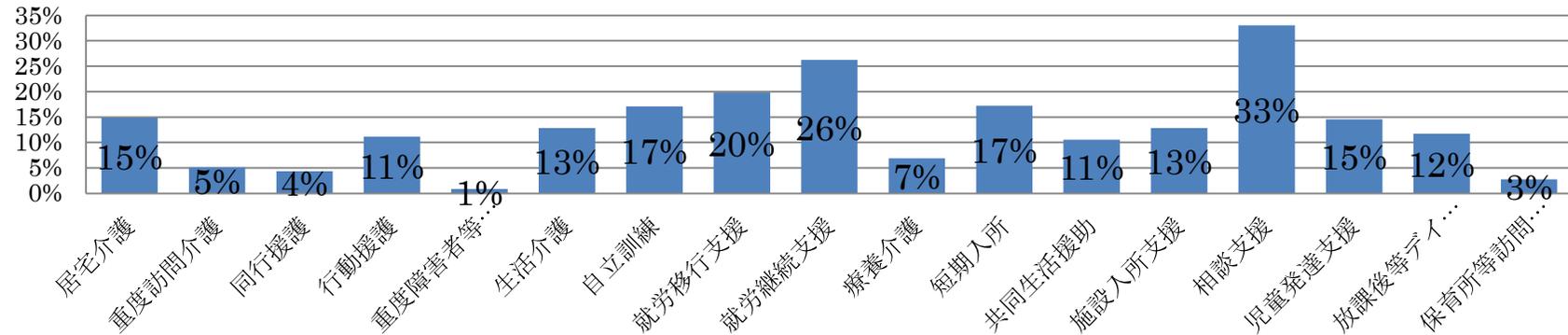


図6-2 今後利用したいサービス

